

第7章 わかくす部門

小学部・中学部・高等部

IV課程の研究

～生活単元学習の年間指導計画と単元別指導計画表の作成～

1 研究の方法

4月	昨年度の研究の取組と今年度の計画についての共通理解
5月	Sスケールを用いた児童生徒の実態把握 個別の指導計画における各教科の目標設定
6・7月	研究授業に関わる単元の検討と授業研究会①小学部高学年 ◎育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った目標・学習内容・評価の設定は妥当だったか。 ○「卒業後の生活・進路を見通した必要な力」の各部段階で育てたい力に迫る授業だったか。
8月	国語科の題材（教材）についての検討 ○各部段階で「ねらい」のつながりはできているか。 ○「学ばせたい言葉」は、各部段階の育てたい力を踏まえて、適切か。
9・10月	研究授業に関わる単元の検討、授業研究会②高等部 ◎「卒業後の生活・進路を見通した必要な力」の各部段階で育てたい力に迫る授業だったか。 ○育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った目標・学習内容・評価の設定は妥当だったか。
11・12月	○今年度の実践を受けた年間指導計画の再編成 小学部、中学部、高等部の縦のつながりを検討 (各学部段階でねらう力を基に) ○Sスケールを用いた評価

2 研究の経過

昨年度の研究では、生活単元学習における「年間指導計画」と「単元別指導計画表」を作成した。今年度はその「年間指導計画」と「単元別指導計画表」に基づいた授業実践を行い、日々の授業と授業評価によってその妥当性の検証を行うこととした。また、国語科の内容を主に扱う単元において研究授業と授業研究会を小学部と高等部から1授業ずつ行い、「育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った目標・学習内容・評価の設定は妥当だったかを検討すること」と「卒業後の生活・進路を見通した必要な力」の各部段階で育てたい力に迫る授業だったかを検討すること」で、小学部から高等部までの学習の縦のつながりを見ることができるようにした。また、その際の手立てや教材は、主体的・対話的で深い学びの視点に立ったものだったかについても、検討を行うこととした。そして、授業反省を基に、次年度の「年間指導計画」を作成するまでを今年度の研究とした。

研究仮説

授業実践において単元別指導計画表を活用することで、各部段階で育てたい力を踏まえ、育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った授業の目標設定、評価を行う授業を、教師間で共通理解してできるのではないかと考えた。また、授業評価を基に年間指導計画の見直しを行い、授業改善につなげることができるのではないかと考えた。

3 研究の実際

(1) 単元別指導計画表を活用した研究授業と授業研究① (小学部高学年)

昨年度の研究において、学習指導要領の各教科の内容から年間指導計画を見直した中で、今年度より新たに立ち上げた国語科を主に扱う単元「昔話に親しもう」について、研究授業と授業研究を行った。昨年度作成した単元別指導計画表を基に、授業者が児童の実態を踏まえて、より具体的な目標と学習内容を設定し、指導案を作成する過程の中で、IV課程の職員全員で目標の妥当性と、目標を達成するための学習活動、手立てについて意見を出し合った。

その際に、育成すべき資質能力の三つの柱で単元の目標を立てて評価する上で、難しさを感じた点や悩みなどを授業者から出してもらい、IV課程の児童にとっての「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」をどのように考えるのか、目標を達成するための学習内容や手立てになっているかどうかについて意見交換を行った。

授業研究会においては、小学部で行うこの単元が、中学部、高等部にどのように発展していくか、小学部から高等部までの縦のつながりを意識した学習を行うことを協議の中心の柱とした。また、教科等横断的な視点から『卒業後の生活・進路を見通した必要な力』の小学部段階で育てたい力に迫る授業だったかについても検討を行った。

<研究授業>

小学部4・5年生 生活単元学習「昔話に親しもう」

<授業研究会> ○良かった点 ●改善点

協議の柱①育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った目標・学習内容・評価の設定は妥当だったか。

(目標設定について)

○育てたい資質、能力について、目標は適切だった。

●「思考力、判断力、表現力」について、思考と判断をIV課程の児童生徒にどう身に付けさせていくか、児童生徒がどう考えていくか、児童生徒によっては「選ぶ」＝「判断力」と言えるのではないか。IV課程は「表現力」に向かいがちになってしまうが、思考力、判断力も様々な教科でねらうことで力をつけることができる。

●IV課程は小学部1段階から2段階の内容を12年間かけて学ぶ児童生徒がほとんどなので、高等部だから高い目標をねらうなどというのは難しい面がある。

(指導について)

○言葉の響きやリズムに気付かせるために繰り返し触れさせていたのが良かった。

○言葉と事物のイメージをマッチングしたのは良い。擬音語と擬態語に特化するとIV課程の児童生徒の実態に合った手立てになることもある。

●「思考力・判断力・表現力」の目標について、「語り掛けや読み聞かせに応じ…」という部分が少ないように感じたため、言葉にこだわった指導場面があるといいのではないか。

(評価について)

●「表現する」の目標について、何をもって表現するとしてよいのか。「話を聞いて体を教師と一緒に動かす」ことを表現とするのか？考えたり思ったりしたことを表すのが「表現」ではないのか？

●“気付き”の評価が難しく感じる。何をもって気付いたとするのか。

協議の柱②「卒業後の生活・進路を見通した必要な力」の各部段階で育てたい力に迫る授業だったか。

(目指す姿の授業評価について)

- 目指す姿はあるが、それぞれの個がどのような姿をもって評価を◎○△とするのかが不十分かもしれない。何をもちこの単元のゴールとするのか。

(題材について)

○昔話を選択したことについて、小1段階の目標(イ)を本単元の目標としていたため、昔話も適切だったと思う。(ア)「身近な人の話しかけに慣れ～」を目標とする場合には、現代文を取り扱っていい。題材のバリエーションを広げて国語力をつけていってはどうか。

- 小～高までの題材の並びを確認する必要があるのでは。絵本ありきになっているところがあるかもしれない。

- 生活年齢に応じた題材選びが大切になる。生活年齢に合った様々な題材(詩、古典など)と出会って興味の幅やバリエーションを広げ、好きな本を見つけることが大切であるとする。

(全体について): 指導助言

- ・重度重複教育における教科指導は、繰り返すことで分かる、気付くなどのプロセスを経て身につけていくものであるが、児童生徒生徒は体験不足なことが多いことから、概念形成が未成熟である。言語概念、数量概念が基盤であり、教科の学びを12年間系統的に教育課程として体系化することが非常に重要である。

これらの意見から、小学部1段階から2段階の内容を12年間かけて学ぶIV課程の児童生徒に、主に国語科を扱う単元の指導において押さえないこととして下記を段階的に指導していくことが大切なのではないかと考えた。

- ・言葉のリズムや響きを捉えることや我が国の言語文化に触れること(知識・技能)
- ・言葉を聞いてイメージし、選んだり、表現したりする力をつけること(思考力・判断力・表現力)
- ・読み聞かせなどに親しみ、周りの人とのやりとりを楽しむこと(学びに向かう力・人間性等)

各題材で「学ばせたい言葉」を大切に指導していくことを共有した。そこで、12年間を通した題材の検討が必要であると考えた。

(2) 主に国語科の内容を扱う単元の題材(教材)の検討

題材について各部の職員に調査を行ったところ、生活年齢に応じた題材選びや目標を達成するための題材選びの難しさ、小学部から高等部までの題材の縦のつながりが見えにくい等の課題が出てきた。各単元で扱う題材や教材については、前年度の担任が使用する教科書に加えて参考となる図書を年間指導計画に掲載したり、各担任が単元の目標に合わせて選んだりしているのが現状である。そこで、単元毎に選んでいる題材を、学習指導要領の内容に沿って一覧にし、選んでいる題材に偏りがいないか、指導のしやすさから教材を選んでいるところがないか、生活年齢に合ったものになっているかについて検討した。

(表1) 主に国語科を扱う単元の題材一覧 (令和元年度)

学習指導要領の内容	小学部低学年	小学部高学年	中学部	高等部	
知識・技能	A言葉の特徴や使い方	「いいおんじできるかな」 「みんなでポン」 「ぎゅ」 「りんごがコロコロリン」	「にぎりぱっちり」 「でんでらりゅう」 「あがりめさがりめ」	「だるまさんが」 「もこもこもこ」 「でんしゃはうたう」	「あまがえるさんなげ泣くの」 「おじさんの傘」 「食べられたやまんぼ」 「おたまじゃくしの101ちゃん」 「はらぺこあおむし」 「くまさんくまさんにみてるの?」 「ケチャップ オムツ コーンフレーク」 「注文の多い料理店」
	イ我が国の言語文化	「ねずみがぱくつ」 「ずぼっ」	「おむすびころりん」	「サーカス」	「めっきらもつきらどおんどおん」
思考力・判断力・表現力	A聞くこと 話すこと	「のせてのせて」 「ぶーぶーぷっぷー」 「ごろん」 「アナゴ体操」	「のせてのせて」 「よーいどん」 「3匹やぎのがらがらどん」	「もけらもけら」 「パンダなりきりたいそう」 「どきげんのわるいロックさん」 「カ、どこいった」 「えらいえらい」 「あめのひのホネホネさん」 「あめのひくまのこ」 「おしくらまんじゅう」 「くるくる ゑゆ」 「だるまさんシリーズ」 「こんにちは お手紙です」	「だるまさんシリーズ」 「くものすおやぶん」 「おむすびさんちの田圃えの田」 「せんたくかあちゃん」 「おしくらまんじゅう」 「おべんとうバス」 「へびくんのおさんぽ」
	B書くこと	七夕短冊、家族への手紙、 年賀状、書初め	七夕短冊、家族への手紙 年賀状、書初め	書初め	書初め
	C読むこと	「にじいろのさかな」 「パパお月様とって」 「おばけなんてないさ」	「くらいくらい」	「さびしがりやのホタル」 「なにをたべてきたの?」 「さわさわもみじ」	「やさいのおなか」 「ぐりとぐら」

扱っている題材を小学部から高等部まで並べて見ることで、同じ題材を数回扱っていることや、生活年齢に応じた題材となっているかが課題ということが見えてきた。単元のねらいは、「繰り返しのフレーズや音の響きを楽しむ」や「絵本に出てくる人や物に注目する」「いろいろな筆記具で書く」など、各部で表現は異なるものの、学習指導要領の内容を網羅できていることが確認でき、今年度扱った題材を表1のように整理することで、各単元で扱う題材のねらいのつながりが小学部から高等部で明らかになった。

また、題材によって学ぶことのできる言葉が変わってくるため、何を基準に学ばせたい言葉を選んだらよいだろうか、という意見が出された。そこで、児童生徒に学ばせたい言葉については、知的障害特別支援学校教科書の「こくご☆」で扱っている言葉を参考にすることを共有した。

(3) 単元別指導計画表を活用した研究授業と授業研究② (高等部)

小学部高学年の研究授業と授業研究と題材一覧の作成から、生活年齢や小学部、中学部で取り組んできた「言葉への気づき」をさらに高等部段階で深めることをねらって、題材として宮沢賢治作「注文の多い料理店」を扱い、研究授業を行った。

<研究授業>

高等部1・2・3年生 生活単元学習「物語に親しむ」

<授業研究会> ○良かった点 ●改善点

協議の柱①育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った目標・学習内容・評価の設定は妥当だったか。

(授業について)

- 擬音語は小学部からずっと扱っているが、物語の怖い雰囲気をよく感じていた。
- 当初は「難しいのでは」と感じていたが、学習を積み重ねることで長い物語を最後まで落ち着いて聞くことができるということを感じた。
- 学習の積み重ねが今回の授業の様子に反映していた。
- 小学部高学年の目標と少し似ているのではないか。
- 言葉と動きを同時に提示するのではなく、言葉→動きの順で提示することで、生徒達が言葉によって動きを連想できるのではないだろうか。

協議の柱②「卒業後の生活・進路を見通した必要な力」の各部段階で育てたい力に迫る授業だったか。

(題材について)

- 小学部では扱われない題材であり、広がりが出ていて良かった。
- 絵本ばかりでなく、教科書からの題材探しも大切だと感じた。
- 題材が難しいというのは大人の感覚であり、生徒は難しいではなく「怖い」「おもしろい」と感じたかもしれない。

(育てたい力について)

- 小中高で同じような単元を設定しているが、育てたい力についても共通の項目を設定できているのか。
- 教科の育成すべき資質能力の三つの柱と育てたい力の区別について今後検討が必要である。
- 育てたい力を並列すると、小学部の「興味・関心を示す」から、高等部では「興味・関心があるものを増やす」と変化しているが、「増やす」だけでいいのだろうか。
- 高等部段階においても扱う内容は小学部1から2段階がほとんどである。その中でどれだけ経験の幅を広げることができるかが大切である。

題材については、学習指導要領の内容と☆本等の指導書を参考にして選ぶこと、生活年齢を考慮して選ぶことの2点を共通理解した。目標としては小学部1段階であっても、今回の授業のように、児童生徒が捉えやすいリズムや特徴のある言葉を用いながら、小学校で用いる教科書の中から選んでいくのもよいのではないかという意見が出された。

「卒業後の生活・進路を見通した必要な力」の各部段階で育てたい力については、「高等部段階で育てたい力として、興味関心を広げるだけでよいのだろうか」という気付きも挙げられた。「卒業後の生活・進路を見通した必要な力」一覧表の見直しも課題であるが、教科等横断的な視点から、IV課程において、「いろい

ろ人からの働き掛けを受け入れ、自分の気持ちを表現し、地域の人等いろいろな人とふれあい、つながることを楽しむことのできる力を育てていく必要があるのではないか」という意見が出された。

(4) 教育課程と年間指導計画の編成

以上のように、小学部と高等部において、研究授業、授業研究会を行い、縦のつながりを見ていく中で出された意見を基に、各部の年間指導計画を以下の二つの視点で見直し再編成することとした。

(視点1) 小学部から高等部において、学習指導要領の各教科のどの段階の内容をどの単元で学習しているのかを一覧にし、偏りや扱うことのできていない内容がないかを再考する。(各教科の視点)

(表2) 各単元の内容一覧の一例

国語科 小学部 低学年	繰り返しの フレーズや 音の響きを 楽しもう	光る教材に注 目しよう	いろいろな 筆記用具を 使って書こ う	音や言葉を 使って遊ぼ う	絵本に出てく る物や言葉に 注意を向けよ う	書き初めを しよう	まねっこあ そびをしま う
ア言葉の特徴や使い方	小1 (イ)				小1 (ア)		小1 (イ)
イ我が国の言語文化		小1 (エ)	小1 (ウ)	小1 (イ)		小1 (ウ)	
A聞くこと話すこと	小1ア			小1ア	小1ア		小1ア
B書くこと			小1イ			小1イ	
C読むこと		小1ア					小1エ

生活単元学習で扱う全教科について、表2のように小学部から高等部までを整理してみると、全体的に概ねどの教科の内容もバランスよく年間を通して配列されていることが確認できた。しかし、細かく見てみると、国語科を主に扱う単元においては、「思考力・判断力・表現力」に関する内容はバランスよく扱うことができていたが、「知識・技能」に関する内容のうち、「言葉の特徴や使い方」を扱う単元が少なかったり、「我が国の言語文化」を扱う単元が少なかったりしたところが確認できたため、それぞれの内容を扱う単元を設けるなどした。他の教科においても、学習指導要領から、小学部から高等部までの学びが連続するように段階と内容を踏まえて年間指導計画の各単元を検討した。

(視点2) 「卒業後の進路・生活を見通した必要な力一覧表」から、本校として身に付けさせたい力を、いつ、どの学習の中でつけようとしているのかを明確にし、「必要な力」を12年間でつけることのできる年間指導計画になっているかを再考する。(教科等横断的な視点)

生活単元学習の年間指導計画を改善していくためのもう一つの視点として、本校の「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」を、小学部から高等部までを通じて身につけていけるような年間指導計画になっているかについて検討を行った。それぞれの必要な力は、一時間単位や単元の短い期間で評価できる力ではなく、長期的な視点で見なければならぬ力だが、具体的に、どのような学習場面でねらっていくのかについては、検討が必要なのではないかと考えている。

IV課程では、29年度から各単元の指導案に、31年度からは単元別指導計画表に、将来を見通した必要な力のどこにつながる授業・単元なのかについて記述する欄を設け、「将来を見据えた学習」を行うことができるよう心がけてきた。これまでの指導案と単元別指導計画表の作成や活用は、各授業担当者が行ってきたが、各単元で取り扱った「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」を並べたときに、各教科でねらいたい力がある程度整理されてきていることが分かった。また、各教科においてねらっている力を明確にし、小学部から高等部まで一貫した学習を行うことができるようにすることで、「必要な力」を確実につけることができるのではないかと考えた。主に国語科を扱う単元においては、「意思の表出」「かかわりの受容」「興味や関心の広がり」を中心としながら、「要求」「学習の受け入れ」「趣味と遊び」の力をつけていくことが大切であるとまとめた。国語科を扱う単元だけでなく、生活単元学習で扱う全教科で行い、それぞれの単元別指導計画表に生かしていくこととした。また、主に国語科を扱う新しい単元を取り入れる際に、小学部では、より「かかわりの受容」をねらうことのできる学習を、高等部では「意思の表出」「要求」をねらうことのできる学習を取り入れてはどうかなどの意見が出され、年間指導計画の編成を縦のつながりを意識して行うことができた。

(表3) 「卒業後の進路・生活を見通した必要な力一覧表」より、各教科においてつきたい力(抜粋)

	必要な力の項目		小学部	中学部	高等部
国語科	④人やもののかかわり	イ意思の表出	・特定の人や身近な教師に対して、自分の意思や気持ちを表情や発声、身振りなどで表す	・友達やいろいろな教師に対して、自分の意思や気持ちを表情や発声、身振りなどで表す。	・いろいろな人に対して、自分の意思や気持ちを表情や発声、身振りなどで表す。
		ウかかわりの受容	・特定の人や身近な教師の働き掛けに対して、イントネーションや身振り、表情の変化などを受け入れることができる。	・友達やいろいろな教師の働き掛けに対して、イントネーションや身振り、表情の変化などを受け入れることができる。	・いろいろな人の働き掛けに対して、イントネーションや身振り、表情の変化などを受け入れることができる。
		オ興味や関心の広がり	・人や物へ注意を向け、興味を示す。	・いろいろな人やものに注意を向け、興味や関心があるものを増やす。	・いろいろな人やものに注意を向け、興味・関心があるものを増やす。
	④課題解決力	ア要求	・特定の人や身近な教師に、要求を伝える。	・友達やいろいろな教師に、要求を伝えることができる。	・いろいろな人に、要求を伝える。
	⑤学習に向かう姿勢	イ学習の受け入れ	・いろいろな学習を経験し、受け入れる。	・学習に関心をもって取り組むことができる。	・いろいろな学習に、興味・関心を持って、取り組むことができる
	⑥進路	ウ趣味と遊び	・いろいろな学習を経験する中で興味のあることや好きなことを見つける。	・いろいろな学習を経験する中で興味のあることや好きなことを見つける。	・いろいろな学習を経験する中で興味のあることや好きなことを見つける。

4 二年目のまとめと今後の課題

単元別指導計画表を活用した研究授業、授業研究会を通して、育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った授業の目標、学習内容の設定、評価までを小学部・中学部・高等部の職員全員で共通理解してできるようになったことが今年度の研究の成果である。また、授業実践と評価を積み重ね、見えてきた課題から「学習指導要領の内容」と「各部段階で育てたい力」を踏まえて、年間指導計画の見直しを行うことができた。また、国語科においては発達段階に応じた「学ばせたい言葉」を踏まえて題材を選ぶことを共通理解することができ、小学部から高等部までの12年間にIV課程の児童生徒が「いつ」「何を」「どのように」学ぶかについても、議論を深めることができた。

今後の課題としては、国語科において行った研究授業を他の教科でも行い、小学部から高等部までの学習の積み重ねができるようにしていくことや、教科間の関連を持たせることが今後の課題と考える。

生活単元学習 学習指導案

日 時 令和元年7月8日 月曜日

3校時 10:50~11:30

対象児童 小学部4組 3名

(4年生1名 5年生2名)

場 所 肢体不自由教育部門小学部4組教室

指 導 者 長谷川義樹 (T1) 柏田裕子 (T2)

1 題材名「昔話に親しもう」

2 題材設定の理由

本学級は、肢体不自由教育部門小学部に所属する男子1名と女子2名で、自立活動を主とする教育課程で学習している。これまでの学習では、絵本の読み聞かせの中で絵を注視したり、教師の声を聴いて笑顔をみせたりするなど、絵本に興味をもっている様子が見られる。また、児童によっては、絵本の絵や教師の声への注目を促すために、ライトの光やうちわの風などの刺激を加えることで笑顔をみせたり、提示した人形に注目したりと、教材の効果で読み聞かせに注目したり楽しんだりすることができてきている。しかし、自己刺激を入れることに固執して読み聞かせに注目しにくかったり、教師の声や教材の音などを聞く力はあるが、絵に注目することが難しかったりするなどの課題がある。

今回の題材では、絵本の中に出てくる言葉の響きやリズムに気付くこと、教師の語り掛けや読み聞かせに応じて声を出すこと、道具を動かして身振りで表現することを目標に、以下の内容を主に取り扱い、昔話「おむすびころりん」の読み聞かせを行う。

特別支援学校小学部 学習指導要領 国語科1段階		
知識及び技能	イ我が国の言語文化	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。
思考力、判断力、表現力等	A聞くこと・話すこと	(ア) 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。

本題材の前のわらべ歌に親しむ学習では、読み聞かせを通してわらべ歌の言葉の響きやリズムに気付いて発声をしたり、テーブルをたたいたりする様子が見られている。今回の「おむすびころりん」も、「おむすびころりん すっとんとん」と繰り返し出てくる言葉があり、言葉の響きやリズムが子供たちに伝わりやすい内容である。また、おむすびを転がしたら歌が流れたり、小槌を振ったら小判が出たりと、1つの動作によって楽しい展開が起きる内容が話の中で幾つかあり、教師の話や読み聞かせに応じて、音声を模倣させたり、簡単な身振りなどの動きをさせるための興味や関心をもたせやすい。

指導に当たっては、絵本を見やすいように、児童3人を近くに集めて読み聞かせを行う。絵本は背景を黒くして絵を大きく拡大して作成した絵本を使用する。その上で、絵が見やすい距離や角度に気を付けて提示し、読み方に強弱や抑揚の変化をつけたり、次のページを開く際に間を空けたりして教師が読む声や音に気付きやすくしたり、先の展開に期待をもたせたりする。また、おむすびを転がし

たら、転がる音や歌などを流したり、小槌を振ったら目の前の机の上に小判をたくさん出して見せたりと、絵本の内容を動きで表して体験することで、学習内容の理解を深めるようにする。読み聞かせの中で聞いた言葉を、実際に音を鳴らすなど体験させた後に授業の後半で再度読み聞かせをする中で、絵本の中に出てくる言葉の響きやリズムにより気付いたり、興味をもったりできるように指導していきたい。

今回の指導で目標にした言葉に注意を向ける力を身に付けさせることで、他の様々な学習場面や生活場面でもそれらの力を発揮して、興味や関心の対象が広がったり、より多く主体的に動いたりできるように、他の学習内容と関連させながら今後も指導していきたい。

3 題材の目標

- 昔話の読み聞かせを聞いて、言葉による響きやリズムに気づくことができる。(知識及び技能)
- 教師の語り掛けや読み聞かせに応じ、声を出したり、教師と一緒に手足を動かしたりして表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉の響きやリズムを感じるとともに、昔話に親しむことができる。(学びに向かう態度、人間性)

4 題材の指導計画 (全8時間)

- 絵本の絵に注目して、昔話を聞こう・・・3時間
- 言葉の響きやリズムを楽しみながら、昔話を聞こう・・・5時間 (本時2 / 5時間)

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- 昔話の読み聞かせを聞いて、繰り返し出てくる言葉の響きやリズムに気づくことができる。(知識及び技能)
- 教師の語り掛けに応じ、声を出したり、手足を動かしたりして表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)

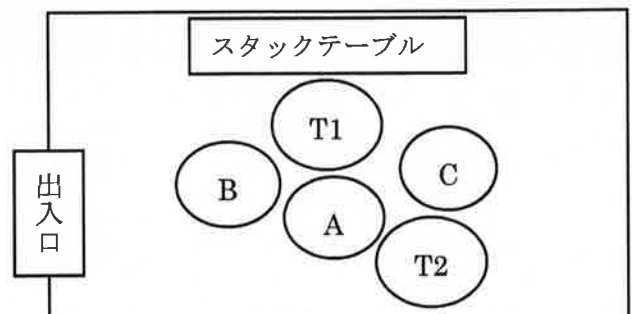
(2) 個人の実態、目標、手立て及び評価 (別紙)

(3) 展開 (別紙)

(4) 評価

- 「おむすびころりん すっとんとん」などの言葉に気付いて、動きを止めたり、表情を変えたりして教師の声に注意を向けることができたか。
- 昔話に繰り返し出てくる言葉に合わせて声を出したり、手足を動かしておむすびや小槌に触れる、動かすなどしたりすることができたか。

6 場の設定



(2) 個人の実態、目標、手立て及び評価

	実態	目標	手立て及び配慮事項	評価
A	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や教材に対して、3～5秒程度注目したり追視したりすることができている。 ・読み聞かせの中で笑顔や発声が見られることがある。 ・体調によつては疲がからみやすく、咳き込むことで絵本に注目できなくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話の読み聞かせを聞いて、繰り返し出てくる言葉の響きやリズムに気づくことができる。 ・教師の語り掛けに反応し、声を出したり、手足を動かしたりして表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本へ注目している様子を見ながら、語り掛けるように目を合わせて読み聞かせて、言葉の響きやリズムを伝える。 ・腕や手足を動かかしやすいように肘や手首を支えたり、動きを誘導したりして、自分からの動きを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる言葉に気付いて、教師の顔を見たり声を出したりして教師の声に注意を向けることができたか。 ・昔話の言葉に合わせて、声を出したり、手足を動かかしておむすびや小槌に触れたり動かしたりすることができたか。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を見るときは顔が左右に動いてしまいが、注目している様子は見られる。 ・絵よりも教師が読む声を聞いて絵本を楽しむことが多い。 ・「いないいないばあ」など、先に起こる展開を見通して、期待して笑顔になる。 ・音への過敏があり、大きな音や騒音で情緒が不安定になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話の読み聞かせを聞いて、繰り返し出てくる言葉の響きやリズムに気づくことができる。 ・教師の語り掛けに反応し、声を出したり、手足を動かしたりして表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の動きを見ながら絵本を提示する位置を調整して、絵への注目を促す。 ・腕を動かかしやすいようにクッションに乗せたり、腕や手先をタッピングしたりして動きを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる言葉に気付いて、笑顔を見せたり声を出したりして教師の声に注意を向けることができたか。 ・昔話の言葉に合わせて、声を出したり、手足を動かかしておむすびを落としたり、小槌を動かしたりすることができたか。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・右目のみ光覚を捉える程度の視力なので、絵本の絵への注目は難しく、教師の声や音、教材の感触などで捉える。 ・教師の読む声に対する発声は難しいが、読み聞かせながらテーパーをたたくと、それに反応して一緒にたたきくことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話の読み聞かせを聞いて、繰り返し出てくる言葉の響きやリズムに気づくことができる。 ・教師の語り掛けに反応し、声を出したり、手足を動かしたりして表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーパーや肩などへタッピングしながら読み聞かせて、教師の声への注目を促したり、手の動きを引き出したりする。 ・語り掛けながらおむすびや小槌などを触らせて、転がしたり振ったりする動きを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる言葉に気付いて、動きを止めて聴いたり、テーパーを軽くたたいたりして教師の声に注意を向けることができたか。 ・昔話の言葉に合わせて、おむすびを転がしたり小槌を振ったりすることができたか。

(3) 展開

時間	手立て及び指導上の留意点			準備物
	A	B	C	
3分	<p>学習活動 (・教師の働き掛け)</p> <p>1 始まりの挨拶をする。 2 始まりの歌を歌う。 3 本時の学習の説明を聞く。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番の児童に号令を促す。 ・目の前で歌い掛けたり、手を動かしたりして、これから学習が始まることを意識させる。 ・絵本や教材を見せながら前回学習した内容を振り返らせ、本時で学習する内容を説明する。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・VOCA ・絵本 ・玩具の教材
5分	<p>4 絵本を見る。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの児童が注目しやすい距離や高さなどを考慮しながら絵本を提示する。 ・「おむすびころりん すっとんとん」などの言葉への注目や期待を促せるように、ページを開く前に間を空けたり強調して読んでいく。 <p>○目を合わせて読み聞かせ、時々間を空けて先の展開への興味を引き出す。</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉への注目を促すために、T2 が一定のリズムでテーパーをたたく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本
12分	<p>5 おむすびを転がす。 ・子供が持っているおむすびを放したら、穴に入れる。 ・穴に落ちる音や曲を流して、「おむすびころりん」の言葉で歌う。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に各児童の目の前におむすびや穴などを提示して、一連の動きを教師がやってみせて、注目を促してから、取り組ませる。 ・子どもの実態に応じて手の動きを援助しながら、おむすびを放す動きを促す。 ・子ども目の前で「おむすびころりん」の歌を歌い掛けて、言葉の響きやリズムに興味をもてるようにする。 <p>○目を合わせて歌い掛け、抑揚をつけながら歌うことで、言葉の響きやリズムを感じやすくする。</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「歌が聴こえるかな」などと歌への期待を膨らませる声掛けをする。過敏にならないように優しく歌い掛ける。 ○目の前で歌い掛けて注目を促す。聴いていない様子なら、テーパーをたたく動きを加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おむすび ・穴 ・ラジカセ
12分	<p>6 小槌を振る。 ・小槌を持たせて教師と一緒に動かして振らせる。 ・子供が振った動きに応じて、目の前に小判を落とす。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度、各児童の目の前に小槌や小判などを提示して、一連の動きを教師がやってみせて、注目を促してから、取り組ませる。 ・子どもの実態に応じて手の動きを援助しながら、小槌を振る動きを促す。 ・子ども目の前で「きんごばんが ざっくざく」の言葉を歌い掛けながら小判を出して、言葉の響きやリズムに興味をもてるようにする。 <p>○注目しやすい角度から小判を落として「ざっくざく」の言葉を言い、視覚と結び付けながら言葉への期待を膨らませる。</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手に小判を落としながら「ざっくざく」の言葉を言って、感触と結び付けながら言葉への興味を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小槌 ・小判 ・ラジカセ
5分	<p>7 絵本を見る。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 回目に見て興味のある場面や、おむすびを転がしたり小判が出てきたりして楽しそうだった場面などを踏まえて、絵本の見せ方や読み方などを工夫して読み聞かせる。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本
3分	<p>8 学習の振り返りをする。 9 終わりの挨拶をする。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの児童が注目できたことや楽しめていたことなどを具体的に挙げて称賛する。 ・当番の児童に号令を促す。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・VOCA ・絵本 ・玩具の教材

展開 34分

日 時 令和元年 10月 24日 (木)
 6校時 14:00～14:45
 場 所 わかくす棟高等部2、3年生教室
 生 徒 肢体不自由教育部門高等部IV課程
 (男子7名 女子1名 計8名)
 指導者 松山 絵美里 (T1) 林 貴明 (T2)
 川上 信輝 (T3) 福山 仁美 (T4)
 一村 房子 (T5)

1 題材名 「物語に親しむ ～言葉が表す動きを知ろう・感じよう～」

2 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材で取り扱う「注文の多い料理店」は、宮沢賢治の短編小説である。本作は、2人の青年紳士が山奥で道に迷い、空腹で途方に暮れたときに発見した「西洋料理店 山猫軒」へ入ったことをきっかけに、扉を開けるごとに注意書きが現れ、後に自分たち人間が動物に食べられる側であることに気付き、恐怖におびえるという物語である。物語の中では、「風」や「草」などの生徒達が身近に聞く言葉とともに、それらからイメージされる「ドウ」、「ザワザワ」などの擬音語が出てくる場面がある。また、「髪をとく」、「クリームを塗る」など、日常の中で聞いたり実際に行ったりする動作を表す言葉が出てくる場面もあり、生徒が日常生活で見聞きする言葉とそれが表す動きや音、感覚などを感じることができる題材である。さらに、本題材は暗く不気味な雰囲気や音、恐怖心を表現するような擬態語なども用いられており、普段明るい物語に触れることが多い生徒達にとって、経験の幅を広げる機会になると考える。

本題材では、物語に繰り返し出てくる擬音語や擬態語が表す音や感覚を感じたり、実際に「草」や「木の葉」などの具合物に触れながら音を表現したりする活動を行う。本題材においては、言葉と実際の音や素材を結びつけて言葉に期待する、言葉を模倣したり具体物に触れたりして擬音語を表現することを目標に、以下の内容を主に取り扱い、絵本「注文の多い料理店」の読み聞かせを行う。

知的障害者を教育する特別支援学校 学習指導要領 国語科小学部1段階		
知識及び技能	言葉の特徴や使い方	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること
思考力、判断力、表現力等	聞くこと・話すこと	(ア) 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振りなどで表現したりすること。

本題材を学習するにあたって、生徒たちが「風がドウ」という言葉とともに風を感じたり、「木の葉はカサカサ」という場面では、実際に木の葉に触れたりするなど、絵本に出てくる言葉を生徒が実際に体験する活動を設定する。また、この学習を繰り返すことで、絵本に出てくる言葉に期待感を感じて主体的に具体物へ手を伸ばしたり、言葉や具体物に注意を向けたりする姿を引き出したいと考える。

(2) 生徒観

本学習グループは自立活動を主とする教育課程で学習している2年生4名、3年生4名の計8名で構成されている。本題材に関する生徒の実態として、教師が行う身振りに対して、3名の生徒は教師の身振りを模倣しようとしたり、次の展開に期待をしてサインや声で要求を表出したりすることができる。2名の生徒は、注意を向けたり表情や声で反応をしたりする様子が見られることがある。3名の生徒については、

教師の働き掛けに気付くことはできるが、注意を向けたり応じたりすることはまだ難しい。注意の持続性については、3名の生徒は時折言葉掛けが必要ではあるが、概ね目の前の教師や教材に注意を向け続けて授業に参加することができる。5名の生徒は、教師の働き掛けや声に気付いて視線を向けることができるが、注意の持続が難しく、他へ視線が逸れたり、自己刺激を入れることに固執してしまったりすることがある。音や提示物への反応については、4名の生徒は音がする方向へ視線を向けたり、提示物に対して手を伸ばそうとしたりする動きが見られ、1名は音へ反応することは少ないが、提示された物へ言葉掛けを受けて手を伸ばそうとする動きが見られる。3名は突発的な音へ反応することはあるものの、注意を向けることや、提示物へ手を伸ばすことはまだ難しい。期待感の表出については、3名の生徒は、繰り返し学習をすることで、次の展開を予測して声や表情、サインなどで期待感を教師へ伝えようとするところがある。1名は、展開を予測したり、見通しをもったりすることは難しいが、教師の言葉掛けや声の抑揚の違いから、「何か起きる」と期待することができる。4名の生徒は、活動を楽しんだり、快、不快を表出したりすることはできるが、教師の言葉掛けや身振りから、次の展開に期待感を示すような表情の変化などはまだ見られない。これまでの学習では、生徒が読み慣れた絵本や落語など、様々な絵本を取り扱い、読み聞かせを積み重ねてきたことで、絵本に興味をもっている様子が見られる。しかし、視線が絵本から他の方向へ逸れてしまうなどの課題がある。

(3) 指導観

本題材で展開する活動「言葉が表す音や感覚を知ろう」では、「風がドウ」、「草はザワザワ」の言葉に焦点を当てる時間と、「木の葉はカサカサ」、「木はゴトンゴトン」の言葉に焦点を当てる時間と2つに活動を分けて展開する。指導にあたっては、絵本に出てくる言葉と、実際の音や感覚との結びつきを深めることができるように、「木の葉は」などの言葉のあとに擬音語が表す音や感覚を具体物を用いて感じさせ、絵本に出てくる言葉が表している音や感覚を実際に体験する場面を設定する。この学習を繰り返すことで、絵本に出てくる言葉に親しんだり、言葉に期待感をもって主体的に草や木の葉の音を表現しようと具体物に手を伸ばしたりする姿を引き出したいと考える。

本時を展開するにあたっては、生徒達が絵本の内容を理解したり、持続的に注意を向けたりすることができるように、絵本の内容を簡略化して使用し、提示方法についても、挿絵の背景を黒くして電子黒板に映し出して指導を行う。また、物語の不気味さや恐怖感を感じることができるように、読み聞かせの際には、室内の明かりを薄暗くして授業を展開する。生徒の配置については、生徒がより学びに向かいやすくなるように、絵や教師の動きを視覚的に捉えることが得意な生徒を教室中央に配置し、読み聞かせや具体物の音などを聴覚的に捉えることが得意な生徒を外側に配置する。教員の配置については、読み聞かせに変化やメリハリをつけて、より絵本への気付きや注意を向けやすくするために、教師2名で役のセリフを分担し、前方から読み聞かせを行う。この学習を繰り返すことで、言葉に期待感をもって表情や身振りで気持ちを表出したり、読み聞かせに応じて言葉の模倣や提示物に手を伸ばして言葉を表現しようとしたりする姿に期待したい。

3 題材の目標

- 言葉が表す音や感覚に触れ、言葉に期待する。(知識及び技能)
- 教師の読み聞かせに応じ、音声を模倣したり具体物を使って音を表現したりする。(思考力、判断力、表現力等) : S・S、S・T、I・D、M・N、M・M、S・Y
- 教師の読み聞かせを聞いて、提示物に気付き、注目する。(思考力、判断力、表現力等) : T・S、M・K
- 読み聞かせを聞いて、言葉が表す音やその楽しさを感じ、言葉を模倣したり、音に注意を向けたりする。(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の指導計画 (全8時間)

- 絵や声に注目して物語を聞こう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- 言葉が表す音や感覚を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間 (本時 3/3)
- 読み聞かせに応じて、言葉や音を表現しよう・・・・・・・・・・3時間

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ① 読み聞かせを聞いて、繰り返し出てくる擬音語が表す音や、その違いに気付くことができる。
(知識及び技能)
- ②-1 「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などの言葉を聞いて、言葉を模倣したり、音を表現しようとしたりする。(思考力、判断力、表現力等) : S・S、S・T、I・D、M・N、M・M、S・Y
- ②-2 教師と一緒に具体物に触れて、「カサカサ」「ゴトンゴトン」などの音や感覚に気付くことができる。(思考力、判断力、表現力等) : T・S、M・K

(2) 生徒の実態、目標、手立て及び評価

生徒	個人の実態	目標	○手立て ■配慮事項	(◎)達成 ○概ね達成 △あまり達成できなかった 評価基準
2年 (M・M)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉掛けを受け、絵本や教師へ注意を向けることができる。 目の前に提示された物へ視線を向けたり、自ら触ろうと手を伸ばしたりすることができる。 活動に期待感や見通しをもつことは難しいが、学習を繰り返すことで、言葉を覚えたり模倣したりすることができる。 	① 「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などの言葉や表現の中から、好きな言葉や表現を指さしや発声で伝えることができる。 ②-1 教師の提示する擬音語を模倣したり、具体物に触れて音を表現しようとしたりすることができる。	○「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などのキーワードを生徒が意識できるように、言葉掛けをしながら具体物に触らせたり、言葉の一字目を教えたりする。 ○具体物から視線がそれた際には、言葉掛けをして、注意を促す。	◎読み聞かせや具体物から鳴る音を聞いて、自ら教師や具体物に注意を向けたり、気持ちを伝えたりする。 ○教師の働きかけに応じて、読み聞かせへ注意を向ける。 △読み聞かせに関心を示さない。 ◎「カサカサ」などの擬音語を模倣したり、具体物に自ら触れたりする。 ○教師が提示する擬音語や具体物に注意を向けたり表情を変えたりする。 △教師や具体物に関心を示さない。
2年 (M・N)	<ul style="list-style-type: none"> 教師の働き掛けや提示した絵本などに對して、長時間は難しいが注視することができる。 教師の声や音に對して、視線を向けることができる。 教師の表情や言葉掛け、声の抑揚から、次の展開を期待することができる。 	① 「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などの擬音語が表す音や感覚の違いに気付くことができる。 ②-1 「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などの言葉を聞いて、具体物に触れて音を表現しようとするることができる。	○「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などのキーワードを生徒が意識できるように語り掛けながら具体物に触らせる。 ○具体物に触らせる際は、肘を支えて腕を動かしたりやすくする。 ■首の角度に気を付けながら絵本に注目させる。	◎読み聞かせや具体物から鳴る音を聞いて、自ら絵本や具体物に注意を向けたり、気持ちを表出したりする。 ○教師の働きかけに応じて、短時間絵本へ注意を向ける。 △絵本や具体物に関心を示さない。 ◎「カサカサ」などの言葉を聞いて、腕を動かして具体物に自ら触れる。 ○言葉掛けをする教師や具体物に注意を向ける。 △教師や具体物に関心を示さない。

2年 (M・K)	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人の声や音に気付いて、快や不快の表情を出すことができる。 ・音に気付いて、その音源の方を探そうとすることができる。 ・視力が不明瞭であるため、絵本の絵や物の形を認識することが難しい。 	<p>① 「カサカサ」「ゴトンゴトン」などの擬音語に気付いて、音の方を向いて聞くことができる。</p> <p>②-2 具体物に触って出る音に気付いて表情を変えられる。</p>	<p>○「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などのキーワードが意識できるように声掛けしたり、体に触れたりしながら気付かせる。</p> <p>■動作表現のある部分では実際に身体に触れたりして動作を体感させる。</p> <p>○音がする方へ顔を向けるように座位保持椅子や生徒の頭部の位置を調整する。</p>	<p>◎読み聞かせの声や音のする方に気付き、顔を向けて物語を聞く。</p> <p>○読み聞かせの声や音に気付き、音のする方を探そうとする。</p> <p>△読み聞かせの声や音に興味を示さない。</p> <p>◎音や触った感触に気付き、顔を向ける。</p> <p>○音や触った感触に気付いて、表情を変える。</p> <p>△具体物に触っても興味を示さない。</p>	◎読み聞かせの声や音のする方に気付き、顔を向けて物語を聞く。 ○読み聞かせの声や音に気付き、音のする方を探そうとする。 △読み聞かせの声や音に興味を示さない。
2年 (S・Y)	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された物や電子黒板等に表示されたものに注意を向けることができるが、注意の持続は難しい。 ・興味があるものだと、提示された物に手を伸ばすことができる。 ・興味があるものだと期待感をもって注視することができる。 	<p>① 「カサカサ」「ゴトンゴトン」などの擬音語が表す音に気付いて、表情を変えたり注ぎを向けたりすることができる。</p> <p>②-1 提示された具体物に触って音を出して表現することができる。</p>	<p>○「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などのキーワードが意識できるように、読み聞かせや音のする方へ視線を向けるように言葉掛けをして促す。</p> <p>○具体物を使った音の出し方を教師と一緒に言い、自発的に手を動かすように促す。</p>	<p>◎絵本を読む声や具体物から出る音に気付き、注意を向けて聞くことができる。</p> <p>○教師の促しに応じて絵本や具体物に注意を向けてきくことができる。</p> <p>△声や音に興味を示さない。</p> <p>◎教師の促しがなくとも自発的に手を動かして音を出ることができる。</p> <p>○教師の促しに応じて、手を動かして音を出そうとすることができる。</p> <p>△具体物に興味を示さず触ろうとしない。</p>	◎絵本を読む声や具体物から出る音に気付き、注意を向けて聞くことができる。 ○教師の促しに応じて絵本や具体物に注意を向けてきくことができる。 △声や音に興味を示さない。 ◎教師の促しなくとも自発的に手を動かして音を出ることができる。 ○教師の促しに応じて、手を動かして音を出そうとすることができる。 △具体物に興味を示さず触ろうとしない。
3年 (I・D)	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に興味をもち、注意を向けることができる。 ・目の前に提示された物へ自ら触ろうと手を伸ばすことができる。 ・学習を繰り返すことで、活動に期待感や見通しをもち、動作を模倣することができる。 	<p>① 読み聞かせを聞いて、繰り返し出てくる言葉が表す音や感覚の違いに気付くことができる。</p> <p>②-1 「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などの言葉や音を表現することができる。</p>	<p>○「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などのキーワードを意識できるように言葉掛けをしながらい具体物に触らせる。</p> <p>○集中力が途切れたり、視線が他へそれたりした際には、具体物を生徒の近くに置いて注意を促す。</p>	<p>◎読み聞かせや具体物から鳴る音を聞いて、自ら絵本や具体物に注意を向けたり、声や表情で気持ちを表出したりする。</p> <p>○教師の働きかけに応じて、短時間絵本へ注意を向ける。</p> <p>△絵本や具体物に関心を示さない。</p> <p>◎「カサカサ」などの言葉や音を聞いて、具体物に自ら触れたりする。</p> <p>○言葉掛けをする教師や具体物に注意を向ける。</p> <p>△教師や具体物に関心を示さない。</p>	◎読み聞かせや具体物から鳴る音を聞いて、自ら絵本や具体物に注意を向けたり、声や表情で気持ちを表出したりする。 ○教師の働きかけに応じて、短時間絵本へ注意を向ける。 △絵本や具体物に関心を示さない。 ◎「カサカサ」などの言葉や音を聞いて、具体物に自ら触れたりする。 ○言葉掛けをする教師や具体物に注意を向ける。 △教師や具体物に関心を示さない。

3年 (S・T)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味がある具体物の場合には、絵本や教師へ注意を向け続けることができる。 ・目の前に提示された物へ視線を向けたり、自ら触ろうと手を伸ばしたりすることができる。 ・学習を繰り返すことと、活動に期待感や見通しをもち、言葉を模倣することができる。 	<p>① 「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などの擬音語や感覚に気付けたり、表情を変えたり注意を向けたりすることができる。</p> <p>②-1 読み聞かせを聞いて、言葉を模倣したり、具体物に触れて音を表現しようとしたりすることができる。</p>	<p>○「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などのキーワードを生徒が意識できるように言葉掛けをしながら具体物に触らせる。</p> <p>○具体物から視線がそれた際には、言葉掛けをして注意を促す。</p>	<p>◎読み聞かせや具体物から鳴る音を聞いて、自ら絵本や具体物に注意を向けたり、リアフを言ったりして気持ちを表出する。</p> <p>○教師の働きかけに応じて、短時間絵本へ注意を向ける。</p> <p>△絵本や具体物に関心を示さない。</p> <p>◎「カサカサ」などの言葉を模倣したり、具体物に自ら触れたりする。</p> <p>○言葉掛けをする教師や具体物に注意を向ける。</p> <p>△教師や具体物に関心を示さない。</p>
3年 (S・S)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある具体物であれば話し雰囲気を楽しみながら最後まで注意を持続して聞くことができる。 ・声質や音の響きの違いを楽しみ、サインで線り返しを催促したり、怖がって終了を依頼したりできる。 ・教師の提示方法や声色の違いで期待感を示したり、終了の要求をサインで伝えたりすることができる。 	<p>① 「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などいくつかの言葉や表現の表情や身振り、サインで伝えることができる。</p> <p>②-1 「カサカサ」「ゴトンゴトン」「ドゥーウ」など、擬音語を、表情や身振りで表現できる。</p>	<p>○「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などのキーワードを意識できるように言葉掛けをしながら具体物に触らせる。</p> <p>○具体物から視線がそれた際には、言葉掛けをして、注意を促す。</p>	<p>◎読み聞かせを聞き、自ら好きな言葉や表現を伝えることができる。</p> <p>○読み聞かせを聞き、自ら好きな言葉や表現を教師の質問に応じて選択できる。</p> <p>△読み聞かせに興味を示さない。</p> <p>◎擬音語の表現部分を聞いて、自ら吐息を強めたり、机をたたいたりなどして表現できる。</p> <p>○擬音語の表現部分を聞いて、教師の促しに応じて吐息を強めたり、机をたたいたりなどして表現できる。</p> <p>△教師や具体物に関心を示さない。</p>
3年 (T・S)	<ul style="list-style-type: none"> ・気に入った声質や音楽に対して穏やかかな表情でじつと聞き入ったり、音の方向に顔を向けたりすることができる。 ・座位保持椅子での活動に抵抗を感じることが多く、教師の読み聞かせを集中して聞くことが難しいことが多い。 ・大きな声で呼び掛けるようになせりふ表現や歌や曲などがあること、興味を示して聞き入ることができ 	<p>① 読み聞かせや音に興味をもち、集中して聞くことができる。</p> <p>②-2 教師の提示する擬音語やそれを表す感覚を聞いたり、感じたりして、気持ちを表情や手の動きで表現できる。</p>	<p>○「カサカサ」、「ゴトンゴトン」などのキーワードを生徒が意識できるように言葉掛けをしながら具体物に触らせる。</p> <p>■読み聞かせを集中して聞くことが難しい際には、座位保持椅子の角度を倒したり、机をとったりする。</p>	<p>◎読み聞かせの間、言葉や表現を集中して聞くことができる。</p> <p>○読み聞かせの擬音語の部分や教師が声色を強める表現の部分を集中して聞くことができる。</p> <p>△読み聞かせに興味を示さない。</p> <p>◎教師の提示する擬音語やそれを表す感覚に對して、驚きの表情や探求しようとする動きを促すことができる。</p> <p>○教師の提示する擬音語やそれを表す感覚に對して、表情を変えたり、感覚を受け入れたりする。</p> <p>△情緒が不安定に鳴る。</p>

(3) 展開

時間	学習活動	学習内容(・) 指導上の手立て (○) 配慮事項 (●)	準備物
5 導入 分	1 授業のテーマ曲を聴く。	○授業のテーマ曲を聴いて、学習が始まることを意識させる。	<ul style="list-style-type: none"> VOCAスイッチ タブレットPC スピーカー
	2 前時を振り返り、本時の活動内容を知る。	○物語に出てくる言葉や具体物を用いながら、前回学習した内容を振り返らせる。 ○生徒が注意を向けることができるように、目の前に触れさせたりする。	
8 分	3 「注文の多い料理店」を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「木の葉がカサカサ」、「木がゴトンゴトン」の言葉へ注目する。 ・「髪をといて」、「クリームを塗って」などの動作を表す言葉を教師と一緒に実際に体験する。 ○読み聞かせへの注意を持続させるように、場面によって読み聞かせをする教師を変えたり、間を空けて読んで読む。(T2【】内を読む、T1その他全文を読む) ○生徒の注意や視線が他へそれた際には、T3、T4、T5は生徒の姿勢を整えたり言葉掛けをしたりして読み聞かせへの注意を促す。 ○動作を用いる場面では、視覚的に捉えることが難しい生徒には、言葉が表す動きを実際に体感させる。 ○生徒全員が挿絵を見やすいように、電子黒板に挿絵を拡大して表示しながら読み聞かせを行う。 ●筋緊張や低緊張などにより姿勢の保持が難しい生徒には、注意を向けやすいように頭部の援助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> PC 電子黒板
	4 「木の葉」、「木」の音を聞いたり、実際に触れたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前に提示された具体物の音や感覚を知り、注意を向ける。 ○どの場面を体験するかを生徒が意識できるように、擬音語を用いる場面で提示するスライドの絵カードを見せる。 ○T1の「木の葉が」などの言葉に合わせて、「カサカサ」、「ゴトンゴトン」を全職員で繰り返し言うことで、擬音語に注意を向けさせる。 ○「木の葉は」という言葉掛けのあとに、「カサカサ」と教師が言いながら具体物に触れさせ木の葉の音を聞かせる。 ○「木は」という言葉掛けのあとに、「ゴトンゴトン」と教師が言いながら教師と一緒に木を前後に動かして、実際の音を聞かせる。 ○生徒の実態に合わせて、教師と一緒に具体物に触れたり、生徒が触れようとするのを待ったりする。 ○言葉の模倣が可能な生徒には、「カサカサ」「ゴトンゴトン」の擬音語を教師のあとに続いて発声させる。 ○教師は生徒の表情や動きに注目し、言葉掛けをしながら生徒の表出に応答する。 	
1 0 分	5 具体物を用いながら「注文の多い料理店」を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせの中で生徒が擬音語を意識できるように、「木の葉」、「木」を実際に用いる。 ○生徒が前方への注意を維持できるように、T1、T2の教師が生徒に前方から具体物を提示したり言葉掛けをしたりし、T3、T4、T5は生徒の動きを援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> PC 電子黒板 具体物
	6 活動を振り返り、教師と一緒に報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒が注目できたことや、模倣できた言葉などを具体的に挙げて活動を振り返ったり称賛したりする。 	
7 終わりの挨拶をする		○授業の終わりを意識できるように、日直の生徒に号令を促す。	<ul style="list-style-type: none"> VOCAスイッチ

展開 32 分

(4) 本時の評価

- ① 読み聞かせを聞いて、「カサカサ」「ゴトンゴトン」の言葉に気付いて具体物に触れたり、注意を向けたりすることができたか。
- ②-1 「木の葉は」などの言葉を聞いて「カサカサ」などと言葉を模倣したり、具体物に触れて言葉を表現しようとしたりすることができたか。
- ②-2 風や木の葉の音や感覚に気付いて、表情を変えたり注意を向けたりすることができたか。

6 場の設定

